

雜 錄

目 次

内外最近刊行誌参考記事目次	316
外國特許拔萃	318

内外最近刊行誌参考記事

1) 製鐵原料

- 東邊道の鐵鋼開發に就て 染谷二男 滿技 18 (昭 16) 47
 蒙疆に於ける鑛産資源 遠藤六郎 地學誌 53 (昭 16) 99
 佛印の鑛物資源 (II) 別所文吉 地學誌 53 (昭 16) 173
 蘭印に於ける金屬鑛物資源 (ニッケル, 鐵, 錫, アルミニウム)
 廣川 稔 日鑛 57 (昭 16) 189
 神鋼クラツシャに就て 澤崎 巖 神鋼 4 (昭 15) 57
 磁石選鑛機に就て 河合 登・野口元吉郎 動力 13 (昭 15) 64
 大弧山鐵鑛石の選鑛方法に關する研究 (I) 後藤有一 滿洲治
 3 (昭 16) 4 月

2) 耐火材並に燃料及び驗熱

- 製鐵, 製鋼と耐火物 三田正揚 滿技 18 (昭 16) 50
 珪石煉瓦の原料に就て 福田 連 滿技 18 (昭 16) 58
 丹波國綾部附近の珪石に就て 倉内吟二郎 水曜 10 (昭 16)
 419
 フォルステライト系耐火物報文集 耐火材料 5 (昭 16) 267
 コルハート熔融耐火材に就て 田所芳秋・須賀音吉 製鐵研究
 No. 173 (昭 16) 1
 電氣熔融鑄造耐火物に就て (II, III) 關 皓之 工化 44 (昭
 16) 317
 石炭規格制定の經過に就て 渡邊 扶 燃協 20 (昭 16) 223
 褐炭を原料とする高級固體燃料製造試驗 (I) 阿部外3氏
 燃協 20 (昭 16) 277
 一酸化炭素と水素よりガソリンの合成の研究 (LV) 村田義夫・
 山田哲造 工化 44 (昭 16) 212
 ガス狀炭化水素より液體燃料の合成 (II) 雨宮登三 燃研報
 No. 45 (昭 16)
 大同炭鑛に就て 武井英夫 日滿支石報 No. 10 (昭 16) 22
 井陘炭鑛概要 日滿支石報 No. 11 (昭 16) 3 月

3) 銑鑛及び合金鐵の製造

- 石景山製鐵所概要 (III) 廣瀨鐵治 製鐵研究 No. 173 (昭
 16) 雜 1
 熔融酸性鐵熔鑛爐鑛滓の特性測定 森田志郎 採治 19 (昭 16)
 148

4) 鋼及び鍊鐵の製造

- 電氣爐製鋼に於ける電化シリサイドの効果 永田義人 日立 24
 (昭 16) 171
 特殊鋼の製造に關する二三の要點 川上義弘 神鋼 4 (昭 15)
 45

砂鐵の還元 杉村 行 日立 24 (昭 16) 148

5) 鐵及び鋼の鑄造

- 鑄物砂粘土分離試験に於けるサイフォン直徑と高さ (落差) と
 の關係に就て 奥野 修 電鋼 17 (昭 16) 181
 鑄鋼用鑄物砂配合に對する基礎理論 (V) 吉田正夫 鑄物 13
 (昭 16) 83

6) 鐵及び鋼の加工

- 昭和 15 年度に於ける我が製作界の成果—鐵及び鋼製品 日立
 24 (昭 16) 65
 軟鋼の常溫加工に關する塑性學的研究 (IV) 寺澤一郎 造船報
 No. 67 (昭 15) 151
 軌條の壓延過程に於ける溫度の變化 板橋三郎 製鐵研究 No.
 173 (昭 16) 29
 チルドロール最近の趨勢 (I) 谷口光平・上田哲三 製鐵研究
 No. 173 (昭 16) 講 23
 鋼材の燒減りと加熱の能率に就て (III) 海野三朗 製鐵研究
 No. 173 (昭 16) 講 1
 火造り機械の進歩に就て 加藤 毅 工業雜 77 (昭 16) 261
 新軍刀特輯號 工學業 9 (昭 16) 63
 鍛鑛工場の熱經濟に關する—考察 古川弘三・山縣謙一 日立
 24 (昭 16) 142
 新熱處理考 岩瀬慶三・竹田 榮 金屬誌 5 (昭 16) 131
 高速度工具鋼の附刃並に盛刃に就て 佐々木新太郎 九鑛誌 12
 (昭 16) 139

7) 鐵及び鋼の性質並に物理冶金

- 耐高溫度強力鑄鐵に關する研究 (III) 齋藤豊三 水曜 10 (昭
 16) 379
 特殊鋼の彈性率と剛性率に就て 菊田多利男 日立 24 (昭 16)
 161
 鑛山方面に用ひられる二三の特種金屬材料に就て 齋藤大吉 日
 鑛 57 (昭 16) 1
 引張試驗用の簡單なる垂直引張裝置 柏京方勝 日機械論 7
 (昭 16) I-33
 鐵・ニッケル・アルミニウム系の新變態並に關聯せる新諸反應機
 構の平衡狀態的研究 木内修一 航研報 15 (昭 15) 591

8) 非鐵金屬及び合金

- 第 II 回冶金研究會記號 : 金銀鑛の處理に關する事項 日鑛
 57 (昭 16) 10
 資源開發と複雜貧鑛の合法處理 (I) 仲田 旭 採治 19 (昭
 16) 135
 鐵を含むアルミ青銅 青山 豊 金屬誌 5 (昭 16) 136
 ニッケル・銅・亜鉛系合金及びニッケル・クロム系合金の高溫に
 於ける異常性に就て 矢野次郎 ニッケル時報 9 (昭 16) 17
 ケルメット軸受の研究 阿部良通 大阪鐵工 4 (昭 15) 143
 ゼノラルミンの主要硬化素 S 化合物の組成と結晶構造に就て 大

日方一司・六崎賢亮 金屬誌 5 (昭 16) 121

マグネシウム合金の成分と耐疲労性 深井誠吉 日機械誌 44 (昭 16) 199

低温に於ける金屬の性質 保本 保 製鐵研究 No. 173 (昭 16) 雜 21

人絹及び人織製造用ノズル材料 西村秀雄 ニッケル時報 9 (昭 16) 4

送電用アルミニウム合金 池野尙志 滿洲冶 3 (昭 16) 4 月
造船用新輕合金 造船雜 No. 228 (昭 16) 122

鑄型温度の銅合金材質に及ぼす影響 吉田秀俊 日立 24 (昭 16) 163

ラウタルの可蝕性に就て 佐久間安正 金屬誌 5 (昭 16) 124
輕合金鑄物の巢とその防止策 小久保定次郎 工業雜 77 (昭 16) 256

SL-AV 型 400 輕合金點熔接機 倉持清一 電協 No. 229 (昭 16) 71

神鋼式マグネシウム合金防蝕法並に同塗料に就て 三浦三索 神鋼 4 (昭 15) 69

9) 化學分析

定量分光分析に於ける乾板特性曲線の應用 松原 隆・吉田佑三 金屬誌 5 (昭 16) 157

電位差計に依る特殊鋼の分析法 (XIII) 野田一六 電鋼 17

(昭 16) 177

10) 工業經濟及び政策

英米獨三國鐵鋼業の性格 大崎富雄 東邊道 No. 5 (昭 16)
獨逸鐵鋼業に於ける經營能率増進の諸方策 (I) 三浦喜代一 鐵鋼聯報 No. 23 (昭 16) 4 月

獨英の戰時鐵鋼生産策の検討 藤堂益三 工業國策 4 (昭 16) 4 月

危機に立つ英國鐵鋼業 森 茂樹 工業國策 4 (昭 16) 4 月
アメリカ鐵鋼業最近の動向 市川弘勝 工業國策 4 (昭 16) 4 月

米國鐵鋼經濟と其收益配分率 (I) 眞板謙藏 鐵鋼聯報 No. 28 (昭 16) 4 月

非鐵金屬對策 (II) 關野唯一 工業評 27 (昭 16) 3 月
輸送談義 (鐵鋼の卷) 栗林達男 汎交通 42 (昭 16) 4 月

11) 雜

石棉代用製品の現在と將來 渡部常正 衛生工 15 (昭 16) 229

セメント糊の研究 (IV) 篠原謹爾 九工彙 16 (昭 16) 1
東京下關間新幹線鐵道に就て 中村謙一 土木誌 27 (昭 16) 191

鐵業より見たる商船用鋼材 水野 駿 造船報 No. 67 (昭 15) 249

II. 銑鐵及びフェロアロイ製造に関する歐文參考書

Boylton, H. M.: An Introduction to the Metallurgy of Iron and Steel, 2nd Ed. 1936. 23×15 cm. pp. 563. B-13.

Clements, F.: Blast Furnace Practice, 1929. 26×21 cm. 3 Vols. pp. 1447+. C-8-10.

Diepschlag, E.: Der Hochofen, 1932. 23×17 cm. SS. 313. D-8.
Durrer, E.: Erzeugung von Eisen und Stahl, 1936. 21×15 cm. SS. 159. D-9.

Durrer, R.: Die Metallurgie des Eisens, 1934. 25×17 cm. SS. 1166. D-10.

Guttman, A.: Die Verwendung der Hochofenschlacke, 1934. 21×15 cm. SS. 462. G-15.

Hoff, H. u. H. Netz: Anlagen zur Gewinnung und Erzeugung der Werkstoffe, 1938. 27×20 cm. SS. 468. H-28.

Jüptner, H. von: Wärmetechnische Grundlagen der Industrieöfen, 1927. 24×17 cm. SS. 260. J-3.

Mathesius, W.: Die physikalischen und chemischen Grundlagen des Eisenhüttenwesens, 2. Aufl. 1924. 24×17 cm. M-9.

Mott, E. A. & R. V. Wheeler: Coke for Blast Furnaces; Being the 1st report of the Midland Coke Research Committee, 1930. 25×15 cm. pp. 267 & 15. M-13.

Osann, B.: Lehrbuch der Eisenhüttenkunde, 2. Aufl. 1923/26. 2 Bde, 23×16 cm. SS. 1789+. O-5/6.

Pavloff, M.: Abmessungen von Hoch- und Martinöfen, 1928. 24×17 cm. SS. 148+. P-13.

Rhead, E. L.: Metallurgy; An elementary text-book, 4th Ed. 1924. 22×14 cm. pp. 382. R-2.

Robiette, A. G.: Electric Melting Practice, 1935. 23×15 cm. pp. 324. R-13.

Rosenholtz, J.: The Elements of Ferrous Metallurgy, 1930. 23×15 cm. pp. 248. R-6.

Sauerwald, F.: Physikalische Chemie der metallurgischen Reaktionen, 1930. 23×16 cm. SS. 142. S-37.

Schenck, H.: Einführung in die physikalische Chemie der Eisenhüttenprozesse, 1932/34: 25×17 cm. 2 Bde. SS. 574+. S-15/16.

Schlipkötter, M.: Wärmewirtschaft im Eisenhüttenwesen, 1926. 21×15 cm. SS. 119. S-33.

Stansfield, A.: The Electric Furnace for Iron and Steel, 1923. 23×15 cm. pp. 453. S-28.

Stoughton, B.: The Metallurgy of Iron and Steel, 4th Ed. 1934. 23×15 cm. pp. 559. S-29.

Tiemann, H.: Iron and Steel; A pocket encyclopedia, 3rd Ed. 1933. 17×10 cm. pp. 588. T-13.

Verein Deutscher Eisenhüttenleute, — herausgegeben vom: Gem-einfassliche Darstellung des Eisenhüttenwesens, 14. Aufl. 1937. 25×18 cm. SS. 591. V-2.

Watschke, J.: Grundlagen des elektrischen Schmelzofens, 1933. 23×16 cm. SS. 505. W-7.

安東省に優秀鐵鑛を發見

安東省鳳城縣通遠堡に優秀な鐵鑛山が發見された。發見者は安東市菊池滿、金山敬三の兩氏が昨年來現地踏査の結果、鐵鋼の露頭部を發見、探査の手を進めたところ相當の鑛脈が走つてゐることが判

明したが最初の露頭部だけでも埋藏量約3千萬トンと推定されるに至つた、分析分結果は

67.17% TFe, 4.87 SiO₂, 0.015 S, 0.0063 P,

近く安東省鑛工股をはじめとする權成者をもつて調査隊を組織し本格的な調査を開始することになつた。(京城日報 4 月 10 日抄)